

ブドウ（無核・無加温栽培）の栽培・防除暦（令和7年版）

鹿児島県園芸振興協議会始良支部（果樹部門）

月	旬	生育相	管理作業	対象病害虫	基幹防除		1000 当たり 薬量	補完防除及び注意事項	散布日・散布量 記入欄 (基幹防除)
					FRACコード(殺菌剤)	IRACコード(殺虫剤)			
1		休眠期	発芽促進(CX-10)処理、 主枝延長枝への芽傷処理	◎越冬病害	罹病枝、巻づる、せん定枝、落葉は園外に持ち出す 防風垣を整備し、園内の通風換気良くする				
2	上		ビニル被覆 灌水	◎晩腐病、黒とう病	デランフロアブル M9 200倍 又は パスポート顆粒水和剤 M5 250倍	500cc 400g	※石灰硫黄合剤との混用はさける ※デランフロアブルはかぶれやすい人は使用をさけた方がよい	月 日	日
3	上 中 下	萌芽直前 萌芽期	灌水	◎べと病 黒とう病	キノドーフロアブル M1 600倍	166cc		月 日	日
4	上 中	発芽期 展葉期	芽かき 灌水 新梢誘引	◎べと病、褐斑病 晩腐病、黒とう病	ジマンダイセン水和剤 M3 1,000倍	100g	※病害は十分な散布量(300g/10a以上)で初期発生を確実に抑える	月 日	日
	下	展葉10枚 開花始め	摘心・花穂整形・摘房 副梢除去	◎べと病、褐斑病 晩腐病、黒とう病 ◎灰色かび病 晩腐病	ジマンダイセン水和剤 M3 1,000倍 スイッチ顆粒水和剤 9,12 2,000倍	100g 50g	○アカガネサルハムシ スミチオン水和剤40 1B 1,000倍 ※病害発生防止のため、湿度が上がらないように換気する	月 日	日
5	上	盛期 終期	第1回目ジベ処理(2~3回に分けて実施) 第1回目ジベレリン処理 (巨峰系4倍体品種の場合 ジベレリン12.5ppm+フルメット5ppm) 【実施中心日: 月 日】						
	中	果粒肥大期	灌水 摘粒、摘房(※ハサミ傷注意!) 第2回目ジベ処理 (1回目から約10日後)	◎灰色かび病、晩腐病、 うどんこ病、黒とう病 ◎アザミウマ類、 ◎チャノキイロアザミウマ	フルーツセイバー 7 1,500倍 コルト顆粒水和剤 9B 3,000倍	66g 33g	○灰色かび病、晩腐病、褐斑病 ミギワ20フロアブル 52 2,000倍 ○灰色かび病、うどんこ病、褐斑病 カナメフロアブル 7 4,000倍 ○チャノキイロアザミウマ アクタラ顆粒水溶剤 4A 2,000倍	月 日	日
	下	落花期	花がら落とし						
	下	果粒肥大期	摘粒(※ハサミ傷注意!) ※環状剥皮 (満開30~35日後)	◎晩腐病、褐斑病 うどんこ病、黒とう病 ◎アザミウマ類、 ハマキムシ類	【袋掛け前】 オンリーワンフロアブル 3 2,000倍 ディアナWDG 5 5,000倍	50cc 20g	○うどんこ病、晩腐病、褐斑病、灰色かび病 ホリベリン水和剤(60日前まで) M7,19 1,000倍 ○べと病 ジャストフィットフロアブル(30日前まで) 43,40 5,000倍	月 日	日
6	上	硬核期	袋掛け (できるだけ昼温を下げる)		【ビニル除去前】 ネクスターフロアブル 7 1,500倍 ランマンフロアブル 21 2,000倍	66cc 50cc	○コウモリガ ガットサイトS(21日前まで) 1B 原液~1.5倍 ロビンフッド(前日まで) 3A (食入孔にノズルを差し込み噴射)	月 日	日
	下	着色開始	副梢除去(1~2枚葉を残し) ビニル除去	着色促進対策(巨峰・ピオーネ)【着色始期~着色開始2週間後】 アブサップ液剤の果房散布(100倍、1果房当たり2~10ml) ※着色先行のため、収穫前に糖度等の果実品質を確認する!			【袋掛け後】 ○チャノキイロアザミウマ(多発時) ダントツ水溶剤 4A 2,000倍 エケルSE(アザミウマ類) 28 5,000倍 ※上記2剤とも前日まで ○ハダニ類 スターマイトフロアブル(14日前まで) 25A 2,000倍 ダニコングフロアブル(前日まで) 25B 2,000倍	月 日	日
7	上 中 下	新梢誘引 適正着果量確認 新梢管理	◎べと病	ムッシュポルドーDF M1 500倍 又は ICポルドー48Q M1 30倍	200g 3.3kg	○ハダニ類 スターマイトフロアブル(14日前まで) 25A 2,000倍 ダニコングフロアブル(前日まで) 25B 2,000倍	月 日	日	
8	上 中	収穫始め 収穫終わり お礼肥					○ハマキムシ類 サムコルフロアブル10(前日まで) 28 5,000倍 ○べと病 オロンディスウルトラSC(14日前まで) 49,40 2,000倍 イトフィンフロアブル(7日前まで) 22 1,000倍 ○褐斑病 オンリーワンフロアブル(前日まで) 3 2,000倍	月 日	日
9			◎べと病 ◎ブドウトラカミキリ	ムッシュポルドーDF M1 500倍 又はICポルドー48Q M1 30倍 スミチオン水和剤40 1B 800倍	200g 3.3kg 125g	※スミチオン水和剤40の散布は収穫後に限る	月 日	日	
10			◎べと病	ムッシュポルドーDF M1 500倍 又は ICポルドー48Q M1 30倍	200g 3.3kg	※ブドウトラカミキリ発生時 ダントツ水溶剤を加用 4A 2,000倍	月 日	日	
11	上	落葉前後	秋肥	◎べと病	ムッシュポルドーDF M1 500倍 又は ICポルドー48Q M1 30倍	200g 3.3kg	※早期落葉を避け、初霜まで葉を保つ	月 日	日
12	上	休眠期	土づくり・排水対策 (堆肥、苦土石灰、中耕) 縮間伐、整枝・せん定、巻づる 除去				○白紋羽病 フロンサイドSC 29 500倍 【50~100g/樹】 ※灌注器で樹幹から半径1m程度の範囲で数力所に灌注処理(かぶれに注意!)	月 日	日

注1)この防除暦は令和6年12月11日現在の登録内容を掲載したものです(※農薬使用時期・使用回数等については、別紙参照)

注2)農薬登録内容が変更されている場合があるので、農薬使用前に表示ラベルを熟読してください

【施肥基準例】

◎蜜のめぐみ1号(7-3-3)使用の場合(10a当たり)

時期	生産量		
	1.5t	1.8t	2.1t
お礼肥 (収穫直後)	尿素 又は(硫安) 100g/樹 又は(200g/樹)		
秋肥 (11月上旬)	蜜のめぐみ1号 4袋	6袋	7袋
土づくり (12月上旬)	堆肥 完熟牛ふん堆肥500kg		
土づくり (12月上旬)	苦土石灰 100kg		

【施肥基準例】

薬剤名	使用目的	使用時期	使用方法	希釈倍数	散布量	本剤の使用回数
CX-10	休眠打破による新梢の 萌芽促進及び発芽率 の向上	収穫後発芽前	結果母枝に散布 又は塗布	10~20倍	150~200 g/10a	1回
ジベレリン錠剤(巨峰系 4倍体品種) [無核栽培]	<2回処理> 無種子化と果粒肥大 促進	満開時~満開3日後 満開10日~15日後	花房浸漬 果房浸漬	12.5~25ppm 25ppm	-	2回
フルメット液剤 (巨峰系4倍体品種) [無核栽培]	着粒安定	満開時~満開3 日後	花房浸漬	2~5ppm	-	1回
ストマイ液剤20 又はアグレプト液剤	無種子化	満開予定日14日 前~開花始期	散布又は 花房浸漬	1,000倍 (200ppm)	-	1回
アブサップ液剤 (巨峰・ピオーネ)	着色促進	着色始期~着色 開始2週間後	果房散布	100~200倍	1果房当たり2 ~10ml	1回

※ クイーンニーナ、シャインマスカット:無核果率向上のために開花前にストマイ液剤20 1,000倍散布

※ 使用薬剤、時期、濃度・量、方法については、品種毎にラベルを熟読の上使用する

◎農薬の安全使用基準を遵守するとともに、生産履歴の記帳を行いましょ！

◎農薬散布時は飛散防止に努めましょ！